



日本選手権2位 2023世界水泳、

女子200メートル平泳ぎ、水泳部の緒方温菜選手(文3)

水泳部の緒方温菜^{はるな}選手(文3)が、5月の日本選手権女子200メートル平泳ぎで2位の好成績を残した。今回の成績で出場が内定した9月のアジア大会(中国・杭州)はコロナの影響で延期されたものの、着実に力を蓄えて、将来の飛躍を期す。成長した先に2023年の世界水泳、その先のパリ五輪で躍動する姿を見据えている。



ラストスパートが持ち味

「200メートルならラスト50、100メートルならラスト25で、私はグリーンと上がっていきけるんです」。レース終盤に全力でスパートをかける。持ち味は後半の追い上げ。スタミナ勝負に自信があり、得意なのは200メートルの方だ。

アジア大会の延期は残念だったが、初めて日本代表(Aチーム)の合宿を経験できたことも収穫となった。東京五輪金メダリストの大橋悠依選手(イトマン東進)や、日本選手権女子200メートル平泳ぎ優勝の今井月(るな)選手(東京ドーム、東洋大4年)らと泳ぎ、身体の機能や使い方を学ぶナショナルトレーニングセンターでの講義も「ステップ

アップできる内容」だった。

現在の目標には、今夏のインカレとともに、2023年7月に福岡で開催予定の世界水泳を挙げる。「実家の熊本の家族も見に来やすい福岡での開催。インターハイのように恩返しをしたい」。高校3年のインターハイは熊本市で開催され、家族や友人らが見守る中で100メートル平泳ぎ、200メートル平泳ぎで2冠を達成していた。

雰囲気圧倒された東京五輪選考会

中大に入学後、自己ベストの記録は出ていたが、インカレなどでは結果を残せず、悔しい思いをした。

転機は2021年4月の東京五輪の

その先のパリへ飛躍

選考会だった。派遣標準記録を突破したが代表内定の2位以内に届かず、個人種目の代表を逃した大本里佳選手(中大卒、ANA)や、優勝しても派遣標準記録にコンマ数秒の差で届かずに悔しそうな表情を見せた選手の姿に、「自分のレース以上に悔しさがこみ上げて泣いてしまった」。

選考会の雰囲気圧倒された自身の成績は200メートル6位。派遣記録にも及ばなかった。「試合に臨む先輩たちの姿勢や態度、雰囲気

気がいつもと全く違った。今度は私がそうならないといけない」。このときから「オリンピックに行きたい」と、より強く意識し始めた。

「自分に合った平泳ぎを見つける」

競泳選手としては細身で、太れない体質という。背筋力を増やそうと、ダンベルを使ったり、5キロの重りをもって上半身の上下動を繰り返したりといった筋力を増やすトレー

ニングを繰り返し、食事管理にも気を配る。筋力を増やして泳ぎを進化させたいと思っている。

専門の平泳ぎについて、「体の前で手を返す動きをする最も抵抗のかかる泳ぎ方」と説明する。「いかに抵抗を小さくするかを追求し、選手一人ひとりが皆、違う泳ぎをしている。自分に合った泳ぎを見つけるという面白さもあるんです」と話す。

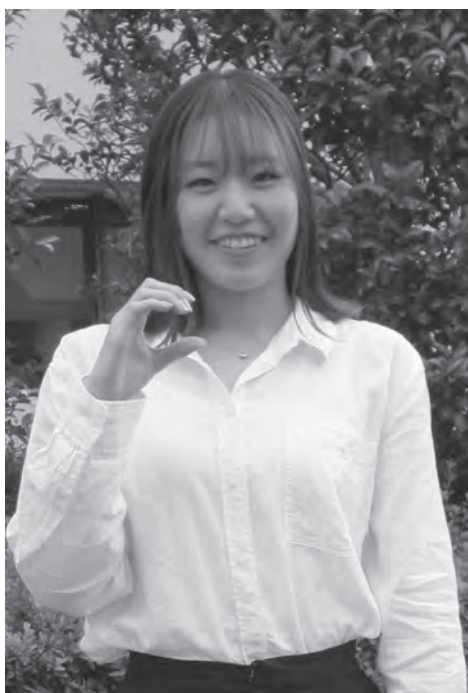
練習は、昔も今も息がつかなくてきつと感じる。「世界」を目指すような練習であれば、きついというのも本音だろう。

水泳のこともほかのことも「何でも話せる仲」というのが水泳部の1学年後輩で、女子4×200メートルフリーリレーで東京五輪にも出場した池本風沙選手(法2)だ。

「ナギとはつらいこともうれしいことも、ずっと一緒に経験している」。同じ近大付高から中央大学に進学し、お互いの気持ちの支えや励みになっているという。



▲「何でも話せる仲」という緒方温菜選手(右)と池本風沙選手の2人



緒方温菜選手

おがた・はるな 熊本市出身。大阪・近大付高卒、文学部3年。イトマン東京所属。身長167センチ。幼少期に水泳を始め、「気づいたら平泳ぎばかりを泳いでいた」と振り返る。高校3年のインターハイで100メートル平泳ぎ、200メートル平泳ぎの2冠。5月の日本選手権200メートル平泳ぎで2位(2分25秒92)に入り、アジア大会代表に選出された。自己ベストは100メートル平泳ぎが1分07秒91、200メートル平泳ぎは2分24秒76。

◀中大の「C」のポーズで笑顔(撮影時だけマスクを外してもらいました) = 多摩キャンパス

完全オンラインの英語劇を創作
中央大学英語学会

『魔法にかけて』

法政大、京大、阪大、神戸大のESSと合同で

コロナ禍「挑戦の大切さ学ぶ」



中央大学英語学会 (ESS、別所七花会長=法3) が、法政大、京都大、大阪大、神戸大のそれぞれのESSと合同で、オンラインによる英語劇『魔法にかけられて』を創作した。対面での演劇のノウハウがない状況からオンラインでの作品づくりに取り組み、コロナ禍という逆境をはね返した。上半身による演技という独特の演出から、対面劇とは異なる表現形態としての可能性を感じさせている。

(英語劇の劇中写真はすべて中央大学英語学会提供)

『魔法にかけられて』 原作はディズニーのミュージカル映画

分かりやすい英語で演じられ、親しみやすく、上映時間が長すぎないという理由でオンライン英語劇として選んだ。練習(稽古)と撮影の準備を2021年12月18日から始め、ZOOMの録画機能を使って撮影した。物語のあらすじに沿って、アンダレーシアという魔法の国が舞台のシーンはアニメーション、ニューヨークのシーンは実写を用いた。撮影期間は2022年1月11~16日。前後編39分38秒。

あらすじは次の通り。

主人公のジゼルは魔法の王国アンダレーシアで、王子エドワードと運命的な出会いをし、結婚の約束を交わした。しかし、その婚姻によって退位を迫られた悪の女王(王子の継母)ナリッサは、結婚式当日にジゼルを井戸に突き落として追放してしまう。その様子を見ていた友人でリスのピップはエドワードに助けを求め、ピップとエドワードは井戸へ飛び込む。一方、ナリッサの家来のナサニエルも井戸へ飛び込み、ナリッサの命令で確実にジゼルをなきものにしようとしていた。

ジゼルは現代のニューヨークにたどり着き、妻のいない弁護士ロバートとその娘モーガンに助けられ、打ち解けていく。ニューヨークでの生活を通して、さまざまな経験をし、彼らと楽しい時間を過ごす。ロバートとの仲も深まっていったが、物語の終盤ではエドワードと再会し、舞踏会の後に魔法の国に戻ることを決意する。

ところが、舞踏会にはナリッサが来ており、ジゼルは毒リンゴを食べさせられてしまう。ジゼルを救えるのは真実の愛だけであった。真実の愛のキスを通して無事に彼女は一命を取り留め、ナリッサに立ち向かっていく。

『魔法にかけられて』前後編は
こちらからご覧になれます。



〈前編〉



〈後編〉





ナリッサがジゼルを倒すために人間の世界に来たシーン。ナリッサ役は伊藤桜子さん（中央大）▲

ESS先輩の ミュージカルがヒント オンライン英語劇に 独自の可能性

別所さんたち3年生の世代は、入学した途端、コロナ禍に見舞われた。対面のさまざまな活動が制限され、ESSの活動も困難を極めていた。そんな中で、ESSの1学年上の先輩がオンラインミュージカルを創作したことが、オンライン英語劇を生む下地、ヒントになった。

先輩たちと創ったミュージカルは「全く別の場所にいるのに画面内では同じ空間にいるという独特な感覚が新鮮で、とても楽しかった」（別所さん）という。ただ、オンラインでは対面以上に参加者集めに苦勞が伴う。この“人数不足”を解消するため、外部の団体に参加を呼びかけ、一緒に創作してみようと思いついた。これまでなかった外部との

交流に結び付くかもしれないという期待もあった。

別所さんからオンラインの活動を提案された制作当時のドラマセクション（部門）チーフ、伊藤桜子さん（法3）は「私は大学では対面での演劇を行ったことがなかった。それに中大のESSだけでも参加者が少ないのに、ほかの大学とのコラボレーションがうまくいくだろうかと心配もあった」と振り返る。新たな試みへの不安も大きかったのだ。

「活動できず苦しい」 他大学の学生も 同じ思い

英語劇に取り組む大学ESSをSNSを使って調べ、ダイレクトメッセージで企画を持ち掛けると、すぐに反響があった。

「活動できずに苦しい」。ほかの大学の学生も思いは同じだった。

10校も送らないうちに、法政大、京大、阪大、神戸大のESSから参加したいとリプライがあった。

それでも、ZOOMを使った創作は試行錯誤の連続だった。演出や衣装、メイク、背景の画像をどうするか。出演するキャストやスタッフのスケジュール管理、キャストへの演技指導、演出の説明、背景に流れる楽曲の編曲…。これらをすべてLINEやZOOMのオンラインミーティングを介して行った。刀剣やグラスなどの小道具は写真に撮って確認し合い、どのシーンにもバーチャルな背景を写真で配置した。

演技、演出に 試行錯誤の繰り返し

練習（稽古）と撮影の準備を2021年12月18日から始め、撮影は2022年1月11～16日に行った。上半身だけの演技でも、鑑賞する人



ここより別の場所がいいですよ？

人間の国にやってきたエドワードとナリッサの手下のナサニエルが対面するシーン。▲
左がエドワード役の渡邊銀士さん（中央大）、右はナサニエル役の伊藤桜子さん（中央大）

が分かりやすいように演技や演出を工夫した。画面に登場する際、左右のどちら側から入るべきか、通話中の2人がスマホを持つ手はどちらにすべきなのか。対面劇では考えもしないことに頭を悩ますことにもなった。

同じESSで活動しているとはいえ、実際に面識のない学生同士がオンラインで英語劇を創るのは難しい。残念ながら普段からの人間関係があるわけではなく、オンラインの打ち合わせでは意思疎通も十分とはいえなかった。「対面の劇の

方が目に見えて相手(役)の反応が分かる。オンラインは手ごたえを感じづらい」(伊藤さん)という制約もあった。

「もうだめだと挫折しかかった瞬間はなかったですか」と尋ねると、別所さんは「いっぱいあった」と即



外の空気を吸わせようと思ってるんだ

ナリッサの悪だくみに気づいたエドワードが驚き、周りに助けを求めるシーン。▲
左がエドワード役の渡邊銀士さん（中央大）、右がナリッサ役の伊藤桜子さん（中央大）



▲ 毒リンゴを食べて倒れたジゼルをロバートとエドワードが助けようとしている場面。▲
左がロバート役の島山涼太さん（法政大）、右がエドワード役の渡邊銀士さん（中央大）

座に言葉を返した。しかし、「離れた場所、距離が遠い大学ともつながることができ、熱意のある人同士が協力してひとつの作品を創りあげることができる。コラボレーションのツールとして今後も活用したい」と、オンラインのメリットも挙げ

た。他大学の演劇サークルにも所属する別所さんにとって、「中大で演劇をしたい」という熱意も創作の支えとなったのかもしれない。

伊藤さんも、対面劇とは異なる表現形態として、コロナ終息後もオンライン劇の創作を続けたいという。

「最初は不安が大きかったのですが、無事にやり遂げられて今は安心しています。やりたいと思ったことは、できるものなんだなと…。挑戦することの大切さを学びました」と話している。



▲ 真実の愛のキスで目を覚ましたジゼルが、悪の女王ナリッサに立ち向かうシーン。▲
左が後半のジゼル役の米田紅音さん（大阪大）、右がナリッサ役の伊藤桜子さん（中央大）



中央大学英語学会の別所七花会長（右）と伊藤桜子さん

119年の伝統と歴史 中央大学英語学会 (ESS)

1903年創部。119年の伝統がある文化連盟所属の公認サークル。ESSは「English Speaking Society」の略。「使う英語」をさまざまな活動を通して学び、身につけることを目的として活動している。活動分野としてはドラマ、スピーチ、レッスン、ガイド、企画、留学生、ディスカッションの各セクション（部門）がある。

会室は4335室（多摩キャンパス4号館）で、現在は主に3～5限の時間帯に活動することが多い。2022年度の対面活動では英語の星座占い、英語の作品を通して演劇の基礎を学ぶレクチャー、洋楽レッスン、アニメの名言や自分の座右の銘を英語で学んで発表するレッスンなどを行っている。

他の団体とコラボすることもあり、留学生に道案内をする交流会を開催した。オンラインでも活動しており、新学期間には英語でのスタバの頼み方や英語勉強法共有会、現在は月に1回程度、英語勉強会を開催している。

在籍する学生数は223人（6月10日現在）。

キャスト、スタッフとして創作に携わった学生の皆さん

（名前の掲載許可をいただいた方のみ、敬称略）

【中央大学】

木村真希
藤田寛之
渡邊銀士
小川瑠翔
小室安希
伊藤桜子
別所七花

【法政大学】

藤田佳愛
リベラメグミ
黒田太志
谷生頼斗
鈴木芙奈

劉瀚洋
畠山涼太
横田麻衣
李きさ
下崎春香

【京都大学】

藤井紀香

【大阪大学】

米田紅音
赤松美咲

【神戸大学】

高嶋紗愛

天体望遠鏡3号機の名称は 「PHAST」

坪井陽子教授の研究室メンバー＝後楽園キャンパス6号館屋上

後楽園キャンパス屋上に開設 フレア解明の“切り札”

理工学部・大学院理工学研究科 坪井陽子研究室

X線天文学の研究を進めている中央大学理工学部、大学院理工学研究科の坪井陽子教授(物理学)の研究室が、2021年春、後楽園キャンパス6号館屋上に天体望遠鏡3号機を開設した。その名称を公募で募り、このほど、「PHAST」(ファスト)に決まった。PHASTは「Photometric And Spectroscopic Telescope」の頭文字をとったもので、「測光」と「分光」を同時に行うことができ、天体をいち早く、ファスト(FAST=高速)に視野に入れ観測を行う、という意味も併せ持つという。さらに天体望遠鏡1号機、2号機、3号機を合わせた総称も、今回の公募で「CHuo-university Astronomical Observatory (中央大学天文台)」の頭文字をとった「CHAO」(チャオ)に決まった。



手前が天体望遠鏡3号機「PHAST」。奥の2機は1号機と2号機＝後楽園キャンパス6号館屋上(中央大学プロモーションビデオから)▲

坪井研究室は、もともとはX線の帯域(周波数の範囲)で天体を観測する研究室だったが、2013年に可視光観測用望遠鏡CAT(キャット)を後楽園キャンパスに開設し、可視光帯域でも観測を行うようになったという。

「国際宇宙ステーションに搭載されている全天X線監視装置『MAXI(マキシ)』で『フレア』と呼ばれる星の爆発現象を探查しています。しかし、フレアを起こした星がどのような星なのか、どのような物理状態でフレアを起こすのかを知るためには、X線帯域だけでなく、可視光帯域で観測することも必要だと考え、CATの導入を決めました」

坪井教授は、さらに可視光観測

用望遠鏡の2号機であるSCAT(スキヤット)の導入についても語った。「2016年には、SCATが同じく後楽園キャンパスに設置されました。CATは『測光』といって星の明るさを測るのですが、SCATは『分光』といって光の中にどのような色の光がどれだけの分量で混じっているかを測ります」

追観測を即時に 「高い駆動力と 天体導入精度」

しかし追観測には、フレアが検知されてから追観測を開始するまでの時間をいかに縮めるかが重要だと坪井教授は語る。「フレアのような突発的に起こる現象では、そ

の現象が起こったと同時にガス、そして『プラズマ』と呼ばれる電離したガスが、高速でジェットのように動いていると考えられます。その動きをドップラー効果として測ることにより、フレアの起源や、フレアの起こった場所に迫ることができると考えています。そのために、追観測を早く始めることに特化した可視光観測用望遠鏡の3号機、PHASTを導入しました」

PHASTは、フレア検出の連絡をMAXIからメールでもらうと、2分以内に観測を自動で開始するという。これはPHASTの望遠鏡本体が180度回転するのにたったの9秒間しかかからないという高い駆動力のおかげである。また天体を、分光用の窓(スリット)に入れるた



PHASTの天体ドーム内部▲

めの精度が1号機や2号機の精度に比べて飛躍的に高くなり、完全自動化も可能になったという。

幼い頃から星の美しさに魅かれていたという那波咲良さん(修士1年)は、現在、PHASTの立ち上げ観測を行なっており、「宇宙には未知のこと、分かっていないことが多い。PHASTの機動性の高さを生かして研究を前進させたい」と意気込む。

文字どおり “FAST”な望遠鏡

PHASTは、望遠鏡で集光された光を特殊なレンズで2方向に分割し、一つは分光器へ、もう一つは測光用のカメラへと伝搬させる

機能も持つ。これにより、「分光」と「測光」を同時に行うことができるという。このような、「分光」と「測光」を同時に、かつ、これほど速いスピードで自動的に始めることのできる望遠鏡は、世界でも珍しいという。

文字どおり、ファスト (FAST=高速) な望遠鏡の存在が、星のフレアなどの突発現象の本質を明らかにする今後の研究の“切り札”になるといえそうだ。

修士1年の浦部蒼太さんは「もともとは理科の教員になりたくて大学に入ったのですが、研究に打ち込んだ上で教員の道に進むのもいいと感じ大学院に進学しました。その結果、研究に没頭する毎日を送っています」とやりがいを話す。

修士1年の根本登さんも「これからは、MAXIからのフレア検出を待つだけでなく、CATやSCATでフレアの起こりそうな星をモニターしておいて、フレアを発見し次第、早急にPHASTを起動させる、というCHAOの使い方もしようと画策しています」と今後の夢を語っている。

研究室には、坪井教授と岩切渉助教のほか、共同研究員4人、大学院生5人、学部生8人が在籍し、日夜、研究に打ち込んでいる。

【天体望遠鏡3号機 PHAST=測光・分光同時観測システム】

名称は「Photometric (測光の) And Spectroscopic (分光学的な) Telescope (望遠鏡)」の頭文字から。望遠鏡の口径は408ミリ。望遠鏡のシステムは、1926年に国産第1号の反射望遠鏡を製作し、京都大に納品した西村製作所(京都市)が作製。ドームは協栄産業製。分光では特に、高分散分光を行い、光のドップラー効果を測定することから、ガスの運動を明らかにする。

PHASTにフレア検出のメールを送るのは、全天X線監視装置「MAXI(マキシ)」であり、90分ごとに全天の突発的に明るくなった天体をサーチしている。坪井研究室のほか、宇宙航空研究開発機構(JAXA)、理化学研究所、東京工業大など国内13の研究機関がその運用にあっている。

【天体望遠鏡1号機 CAT=可視光測光観測システム】

名称は「Chuo-university Astronomical Telescope」の頭文字から。2013年、後樂園キャンパス6号館屋上に設置。星の明るさを観測する「測光」用であり、スマホ一つで操作できる。口径260ミリの望遠鏡、冷却CCDカメラ、各種カラーフィルターで構成。

【天体望遠鏡2号機 SCAT=可視光分光観測システム】

「Spectroscopic Chuo-university Astronomical Telescope」の頭文字から。分光用であり、特に、低分散分光を行い、ガスの含有元素の特定なども行う。2016年に設置。口径355ミリの望遠鏡、分光器、冷却CCDカメラなどで構成。

【坪井研究室メンバー】(敬称略)

教授	坪井陽子
助教	岩切渉
共同研究員	勝田哲 稲見武夫 佐々木亮 河合広樹
学生 修士2年	甲原潤也 西山凜太郎
修士1年	浦部蒼太 那波咲良 根本登
学部4年	足立一步 金子陽 後藤絵美 猶木皓太 藤巻美乃里 古川竜大 山中日向 和久井開智

